

No. 922

黒いスキー

—冬季オリンピック迫る—

北海道虻田郡喜茂別町中山峠は、すでに気温10度以下という初冬の肌寒さ。今、札幌冬季オリンピック大会をめざす、ジャンプや複合選手の激しい練習が行なわれています。複合は、メダルを期待される勝呂、佐々木、荒谷、それに新鋭の中野。グラウンドに敷きつめた塩化ビニールのコースを滑りまくっています。

金メダルを期待されるジャンプ陣は、笠谷、青地、金野、それに複合から転向し、ジャンプ一本にしぼった板垣。選手層の厚さは、冬季オリンピックをめざす日本選手団の中にあって随一です。それだけに、練習は厳しく、室内体育館では激しいサーキットトレーニングが連日、秒刻みでくりかえされています。あと140日足らずと迫った冬季オリンピックでの活躍を約束するような各選手の苛酷なトレーニングに耐える姿にひきかえ、9月13日、札幌オリンピックのスキー特別強化合宿費の不正使用事件が明みにされ、二人が逮捕されるという不祥事が起きました。全日本スキー連盟は、14日、緊急理事会を開いて、今後の処置を検討する事になったものの、選手に与える影響はぬぐいされない。

五輪万能の考えの中に安易な姿勢があったのではないか、あるいは、スポーツ界の組織に弱点があったのではないかと、いろいろ非難が集中する折り、再度、オリンピックの根本の精神に立ち返り、万全の策をたて、札幌オリンピックを迎えたいものです。

建築Gメン

人口産業の都市集中に伴ない都市部やその周辺部において、周囲の採光、通風を妨げる建物や防災上危険な建築物などがいま、大きな社会問題となっています。

昭和25年に建築基準法が制定され、建築物の構造、防災上の安全性、建築物の用途の制限、建ぺい率、建築物の高さなどについて、規制が行なわれてきましたが、違反建築物は、いまだに跡をたたない状態です。

特に、この数年急激に人口の増加をみる神奈川県下では、悪質な違反建築がウナギ登り、土台も地面の上にとだのせただけ、下水施設はあっても流れる穴もない。申請書類では二軒の処を、実際には三軒、四軒と建てて、人の通れるすきもないといった建ぺい率違反などは、日常茶飯事です。

このような、悪質業者や違反建築物を一掃するために建築Gメンは、毎日活躍しているのです。